

資料_高齢者バス運賃助成事業の見直し(案)

令和7年11月
こども福祉部福祉室高齢介護課

高齢者バス運賃助成事業を長く安心して利用できる仕組みに

制度を続けながら、もっと外出しやすくなる工夫も加えます。

主な
ポイント

制度を安心して続けられるように助成割合を工夫します。

例 運賃250円の場合の本人負担

現行 130円（5割助成）
見直し後 180円（3割助成）

現行どおり
1度の利用でも助成をします。

よくバスを利用される方は『阪急グランドパス購入代金の助成』で
今よりお得に外出できます。

- ・乗車回数が多い市民は、現行よりも負担が減少します。
- ・阪急グランドパス利用者は阪神バスも利用可能なため、阪神バス／市外利用の場合も助成が受けられます。

高齢者バス運賃助成事業の役割

窓口で乗車証(芦屋市専用のICカード)を作成すれば、そのICカードを利用することで阪急バスが半額で乗れる事業で、**外出支援を目的**としています。



■助成対象

- ・阪急バスへの乗車
- ・乗車または降車が芦屋市内に限る

■タイプ

専用のICカード

■利用方法

- ①芦屋市に専用のICカードを申請
- ②乗車時に専用のICカードを機械にかざす※
- ③降車時に専用のICカードを機械にかざす

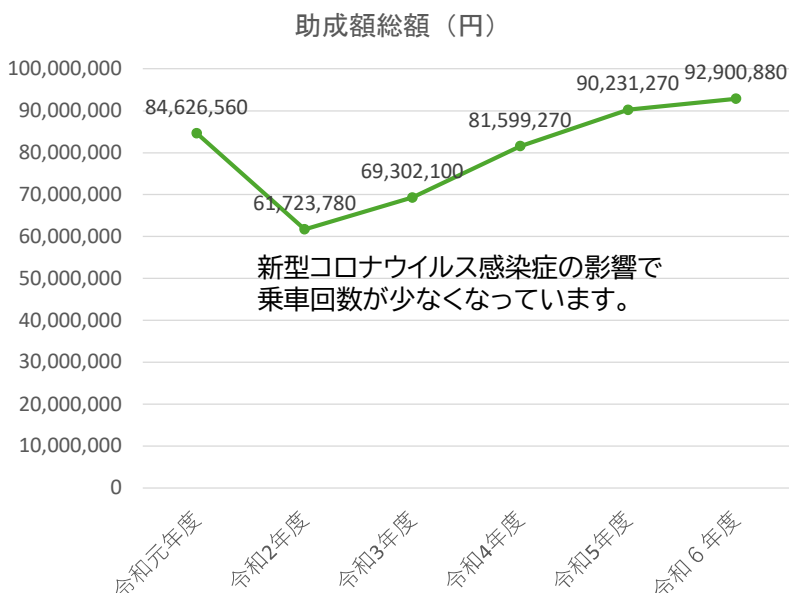
※事前に営業所や阪急バス車内でICカードに2,000円～20,000円をチャージ

月数回の利用から毎日の利用まで、幅広い方が活用しています。外出促進に役立っています。

高齢者バス助成事業の問題点

高齢者人口の増加と、阪急バスの運賃の改定等で支出が増えています。

■高齢者バス助成事業の支出額の推移



■阪急バス運賃の改定履歴

年度	運賃
～令和5年8月	220円
令和5年9月～	230円
令和6年10月～	240円
令和7年9月～	250円

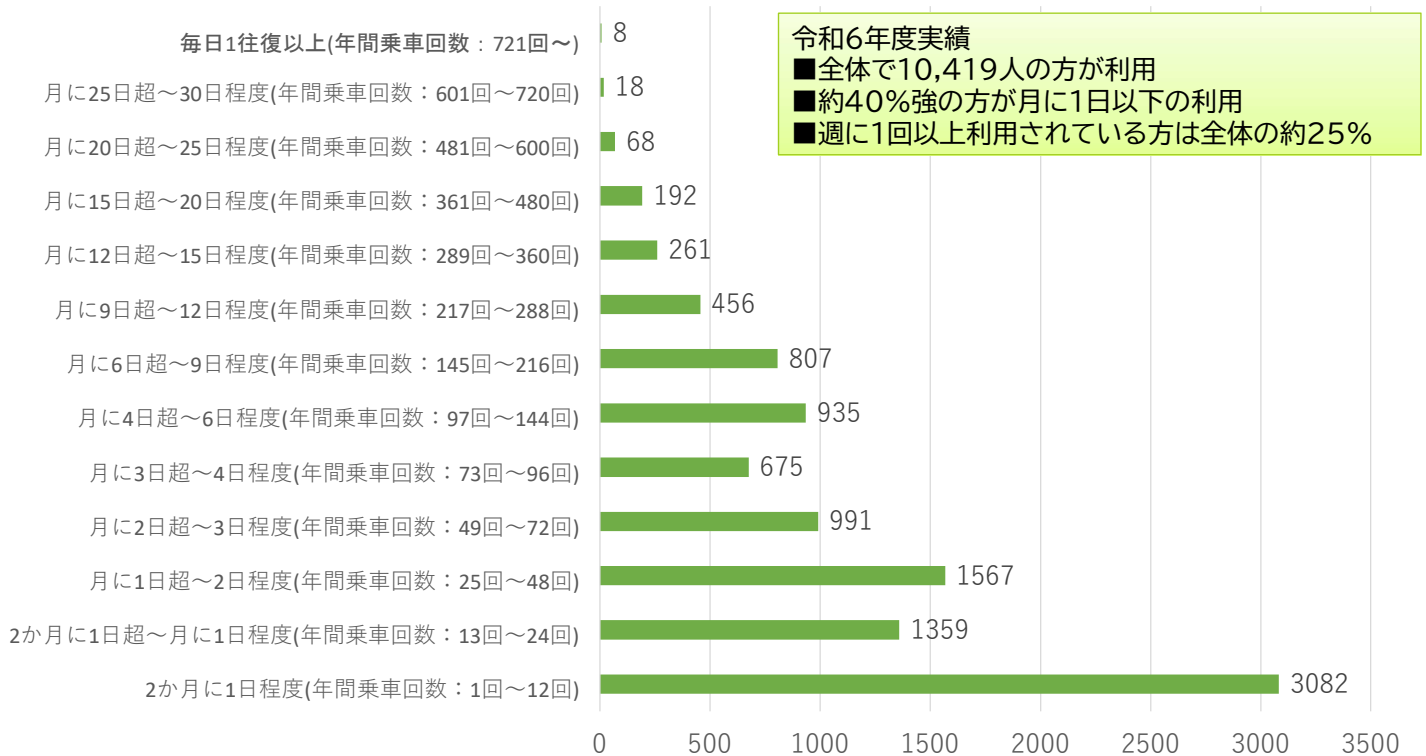
■芦屋市の補助額

年度	運賃
～令和6年9月	110円
令和6年10月～	120円

高齢者バス運賃助成事業の利用状況

高齢者バス運賃助成事業利用実績

単位:人



高齢者バス運賃助成事業に対するご指摘

主に3つの問題点が指摘されています。

ご指摘①

- ・ 助成額の総支出額が大きすぎるのではないかと

ご指摘②

- ・ 高齢者バス運賃助成事業に外出支援としての効果がないのではないかと

ご指摘③

- ・ バス路線が通っている地域と通っていない地域で公平性が欠けるのではないかと



令和6年度に市民アンケートを実施

高齢者バス運賃助成事業に係るアンケート①

■高齢者バス運賃助成事業に係るアンケート (令和6年12月2日(月)～令和7年1月10日(金))

1 対象者

分類	対象	抽出者数
グループ①	70歳以上の者のうち、 バス運賃助成事業の割引証利用者	500名
グループ②	70歳以上の者のうち、 バス運賃助成事業の割引証未利用者	500名
グループ③	65歳以上70歳未満の者	500名

2 回答率

対象	抽出数	回答数	回答率
無作為抽出者回答	1,500	969	64.6%

3 標準偏差

年齢	母数 (N)	回答数 (n)	5% または 95%	10% または 90%	20% または 80%	30% または 70%	40% または 60%	50% または 50%
65歳以上 70歳未満	5,702	293	±2.4%	±3.3%	±4.5%	±5.1%	±5.5%	±5.6%
70歳以上	23,029	676	±1.6%	±2.2%	±3.0%	±3.4%	±3.6%	±3.7%
全体	28,731	969	±1.3%	±1.9%	±2.5%	±2.8%	±3.0%	±3.1%

他 一般回答 573件

高齢者バス運賃助成事業に係るアンケート②

問5 外出することが介護予防につながると感じますか？1つだけ選んで数字に○をつけてください。

高齢者の約9割が、外出は介護予防に関係があると認識しており、バス運賃助成事業未利用者の80%以上の方も、外出は介護予防に関係があると認識している。

単位:%

グループ	つながる	どちらかと言えばつながる	計
グループ1 (70歳以上・バス運賃助成事業利用者)	76.4	15.6	92.0
グループ2 (70歳以上・バス運賃助成事業未利用者)	56.5	23.8	80.3
グループ3 (65歳以上70歳未満)	75.8	14.7	90.5
無作為抽出者全体	72.8	16.7	89.5
参考:一般回答者 (無作為抽出者以外)	81.2	13.1	94.3

高齢者バス運賃助成事業に係るアンケート③

問 7 あなたの普段の外出頻度について、1つだけ選んで数字に○をつけてください

全てのグループにおいて「週5日以上」外出している方は50%を超えている。また、**グループ1がグループ2より外出頻度が高い**。「ほぼ外出しない～月2、3日しか外出しない」の割合は、グループ2が突出して高く、バス運賃助成事業と外出頻度は一定関係性があると推測される。

単位:%

グループ	週5日～ ほぼ毎日	週1日～ 週4日	ほぼ外出しない～ 月2、3日
グループ1 (70歳以上・バス運賃助成事業利用者)	57.7	39.2	3.0
グループ2 (70歳以上・バス運賃助成事業未利用者)	50.6	31.6	7.2
グループ3 (65歳以上70歳未満)	74.4	23.6	0.3
無作為抽出者全体	61.5	33.1	2.9
参考:一般回答者 (無作為抽出者以外)	60.5	35.6	2.6

高齢者バス運賃助成事業に係るアンケート④

問 6 あなたが普段移動される際に利用される移動手段について、当てはまる数字すべてに○をつけてください。

グループ2(70歳以上・バス運賃助成事業未利用者)の方もバスを利用している。

単位:%

グループ	阪急バス	みなと観光バス	阪神バス
グループ1 (70歳以上・バス運賃助成事業利用者)	83.3	6.9	11.4
グループ2 (70歳以上・バス運賃助成事業未利用者)	22.6	1.8	8.3
グループ3 (65歳以上70歳未満)	48.8	7.2	10.9
無作為抽出者全体	62.3	6.1	10.7
参考:一般回答者 (無作為抽出者以外)	73.1	8.2	12.7

高齢者バス運賃助成事業に係るアンケート⑤

問6 あなたが普段移動される際に利用される移動手段について、当てはまる数字すべてに○をつけてください。

グループ1の方が、グループ2の方よりタクシーを利用されている。徒歩や自転車で移動される割合もグループ1の方が、グループ2の方よりも高い。

単位：％

グループ	徒歩・自転車	タクシー	自家用車 (自分で運転)	自家用車 (家族等が運転)
グループ1 (70歳以上・バス運賃助成事業利用者)	77.6	38.0	24.4	21.5
グループ2 (70歳以上・バス運賃助成事業未利用者)	63.7	32.1	29.2	25.0
グループ3 (65歳以上70歳未満)	80.9	29.4	43.3	28.0

高齢者バス運賃助成事業に係るアンケート⑥

問11 ア **割引証を所有することでの外出機会が増えたか**について、1つだけ選んで数字に○をつけてください。

割引証を所有することで、外出が「増えた」「どちらかと言えば増えた」もしくは「維持できている」が合わせて68.4%となり、**割引証の所有が外出の維持、増加に役立っている。**

単位：％

グループ	増えた どちらか と言えば増えた	維持 できている	バスにそこ まで乗らない ので影響はない	どちらとも 言えない
グループ1 (70歳以上・バス運賃助成事業利用者)	41.4	27.0	20.9	8.7%
参考：一般回答者 (70歳以上・バス運賃助成事業利用者)	58.2	18.5	13.9	8.2%

高齢者バス運賃助成事業に係るアンケート⑦

問12 70歳になったらバス運賃助成事業の割引証を申請されるかについて、1つだけ選んで数字に○をつけてください。

グループ3の68.9%が、「申請する」、「どちらかと言えば申請する」と回答しており、高い割合で本事業を利用されようとしている。
一般回答者のうち65歳以上70歳未満の方でも、86.8%が「申請する」「どちらかと言えば申請する」と回答しており、高い割合で本事業を利用されようとしている。

単位：％

グループ	申請する	どちらかと言えば 申請する	計
グループ3 (65歳以上70歳未満)	54.6	14.3	68.9
参考：一般回答者 (65歳以上70歳未満)	71.7	15.1	86.8

高齢者バス運賃助成事業に係るアンケート⑧

問13 あなたが**割引証を申請しない理由**について、当てはまる数字すべてに○をつけてください。
(複数回答可)

割引証を申請しない理由は、**バス路線が近くに通っていないことよりも、徒歩や自転車で行ける範囲内に駅や商業圏があること等の地域特性や、自身で移動できることが大きい。**

単位：％

申請しない理由	グループ2 (70歳以上・バス運賃助成事業未利用者)	グループ3 (65歳以上70歳未満)
徒歩や自転車で十分だから	31.4	55.0
自分で運転しているから	25.4	40.0
事業を知らなかったから	17.8	6.3
家族等の運転で移動できているから	16.9	22.5
バス路線が近くに通っていないから	16.1	8.8
本数が少なくバスは不便だから	13.6	21.3
手続きが面倒だと思ったから	9.3	5.0
バス路線はあるが、バス停が遠いから	8.5	6.3
外出すること自体が体力的に大変だから	5.9	1.3
阪急グランドバスを利用しているから	5.1	3.8
障がい者の割引証を利用しているから	4.2	2.5
バスに乗って外出するのがしんどいから	4.2	6.3
施設に入所しているから	2.5	0
会社から通勤定期代をもらっているから	0.8	2.5

高齢者バス運賃助成事業に係るアンケート⑨

問14 バス運賃助成事業そのものについて、1つだけ選んで数字に○をつけてください。

全てのグループで、「助成額が減額等になっても本事業の継続を望む」が1番多い。

単位:%

グループ	現行どおりの継続	助成額を制限して継続	継続 計	本事業の廃止
グループ1 (70歳以上・バス運賃助成事業利用者)	34.6	53.1	87.7	6.5
グループ2 (70歳以上・バス運賃助成事業未利用者)	9.5	50.7	60.2	22.1
グループ3 (65歳以上70歳未満)	14.7	62.8	77.5	20.1
無作為抽出者全体	24.3	55.6	79.9	13.3
参考:一般回答者 (無作為抽出者以外)	33.5	56.0	89.5	8.7

高齢者バス運賃助成事業に係るアンケート⑩

問14 バス運賃助成事業そのものについて、1つだけ選んで数字に○をつけてください。

お住まいの地区とのクロス集計では、**全地区で「助成額を制限して継続」が1番多い**。また、「本事業の廃止」が多いのは、精道小学校区、宮川小学校区である。

単位:%

小学校区	現行どおりの継続	助成額を制限して継続	継続 計	本事業の廃止
奥池地区	40.0	46.7	86.7	0.0
山手小学校区	19.4	57.0	76.4	18.8
岩園小学校区	19.8	58.7	78.5	15.7
朝日ヶ丘小学校区	30.1	57.2	87.3	5.9
精道小学校区	17.5	54.1	71.6	23.3
宮川小学校区	16.3	54.6	70.9	22.1
打出浜小学校区	19.1	54.2	73.3	12.8
浜風小学校区	32.4	55.8	88.2	3.6
潮見小学校区	39.3	51.4	90.7	4.7
南芦屋浜地区	23.4	59.5	82.9	10.6

高齢者バス運賃助成事業に係るアンケート⑪

問14 バス運賃助成事業そのものについて、1つだけ選んで数字に○をつけてください。

バス利用回数とのクロス集計では、月21～25回(月11～12日程度利用)を除き、すべての回数別の利用者で「助成額を制限して継続」が1番多い。バスの利用回数が少ないほど、「本事業の廃止」が多くなるが、それ以上に「助成額を制限して継続」の回答が多い。

単位:%

乗車回数	現行どおり 継続	助成額を制限し て継続	継続 計	本事業の廃止
月31回以上	42.4	50.0	92.4	0.0
月26～30回	28.1	59.4	87.5	3.1
月21～25回	56.1	43.9	100.0	0.0
月15～20回	43.8	49.4	93.2	1.1
月10～14回	27.9	64.4	92.3	4.8
月5～9回	23.5	60.9	84.4	9.5
月1～4回	27.2	57.8	85.0	9.4
年数回程度	12.2	60.3	72.5	23.2
バスに乗らない	7.1	51.6	58.7	34.8

高齢者バス運賃助成事業に係るアンケート⑫

問15 外出促進による介護予防の観点から、助成する考え方にバス利用頻度を考慮すべきかについて、1つだけ選んで数字に○をつけてください。

無作為抽出者全体でも、参考:一般回答者でも、現行より少額になっても1回でも利用している方にも助成をすべきと考えている方が多い。

単位:%

グループ	ある程度乗車している方に 限定して助成	現行より少額になっても1回 でも利用している方にも助成
グループ1 (70歳以上・バス運賃助成事業利用者)	18.7	53.0
グループ2 (70歳以上・バス運賃助成事業未利用者)	24.4	25.0
グループ3 (65歳以上70歳未満)	32.8	30.0
無作為抽出者全体	23.9	41.2
参考:一般回答者 (無作為抽出者以外)	24.3	45.9

高齢者バス運賃助成事業に係るアンケート結果も踏まえた市の考え方

高齢者バス運賃助成事業を持続可能なものとなるように見直します。

市民アンケートの結果	市の考え方
割引証を所有することで、外出が「増えた」「どちらかと言えば増えた」もしくは「維持できている」が合わせて68.4%となり、割引証の所有が外出の維持、増加に役立っている。	高齢者バス運賃助成事業を 継続
<ul style="list-style-type: none"> ・全てのグループで、「助成額が減額等になっても本事業の継続を望む」が1番多い。 ・これから本事業を利用される65歳以上70歳未満の方が高い割合で本事業を利用されようとしている。 	高齢者バス運賃助成事業を 持続可能な制度とするために、助成金額を見直し
無作為抽出者全体でも、参考：一般回答者でも、現行より少額になっても1回でも利用している方にも助成をすべきと考えている方が多い。	利用者を限定せず に、今までどおり70歳以上の高齢者の方全てを対象とする。

市民の声を活かした持続可能な方法の選択

誰もが利用できる『助成割合の工夫』を選びました。

助成額の制限案	案の内容	デメリット	可否
所得制限	所得制限を設けて、非課税の人のみ利用できる	ICカードは一度作成すれば永久に利用できるため、毎年発行するものではない。経済的支援ではなく、事業の趣旨と異なる。	×
回数上限設定	月の回数を設定し、上限を超えた場合は、正規の料金となる。	回数のカウントは可能だが、上限を超えた場合の回数のリセットはシステム上不可であり、営業所にその都度行く必要がある。利用者が上限を超えたことに気付きにくい。	×
対象者限定	運賃助成制度を廃止し、阪急グランドパス購入代金の助成のみにする	アンケート結果より1回でも乗車する方への助成の要望が多い。 8割以上の市民の方が対象外となるため、反響が大きく市民の声に反する。	×
助成割合変更	乗車運賃の助成割合を減少する	回数を乗れば乗るほど負担が大きくなるため、生活にバスが必要な方ほど影響を受ける。	○

制度を長く続けるための工夫

制度を将来にわたり続けるため助成割合を工夫し3割助成とします。その結果、新しい支援にも取り組みます。

助成率	運賃助成額後の 本人負担額(円)	芦屋市負担額計 (円)	本人負担額計 (円)	1人当たり 本人負担額計 (円)	負担総額計 (円)
5割助成(現行)	130	97,191,480	105,290,770	851	202,482,250
4割助成	150	80,992,900	121,489,350	982	202,482,250
3割助成	180	56,695,030	145,787,220	1,178	202,482,250
2割助成	200	40,496,450	161,985,800	1,309	202,482,250

令和5年度の乗車回数の実績に、運賃を250円とし、本人負担額を置き換えて再計算し算出
現行制度と比較し、約4,000万円の支出削減効果を見込みます。

阪急グランドパス購入代金の助成を含めた負担比較

阪急グランドパス購入代金助成も含めると、より持続可能な仕組みになります。

グランドパス購入代金助成なし

助成率	運賃助成額後の 本人負担額(円)	芦屋市負担額計 (円)	本人負担額計 (円)	1人当たり 本人負担額計 (円)	負担総額計 (円)
3割助成	180	56,695,030	145,787,220	1,178	202,482,250

グランドパス購入代金助成あり

助成率	グランドパス購入代 金助成額	芦屋市負担額計 (円)	本人負担額計 (円)	新規追加額※ (円)	負担総額計 (円)
3割助成	130	49,684,020	123,953,880	9,600,000	183,237,900

※阪神バス利用者等、新規に本事業を利用し阪急グランドパス購入代金の助成を受ける市民を600人と見込む

市民負担軽減策(阪急グランドパス70購入代金の助成)①

阪急グランドパス70は、70歳以上向けの阪急バスと阪神バスが乗車できる専用の乗車券です。



・阪神バスも乗れます

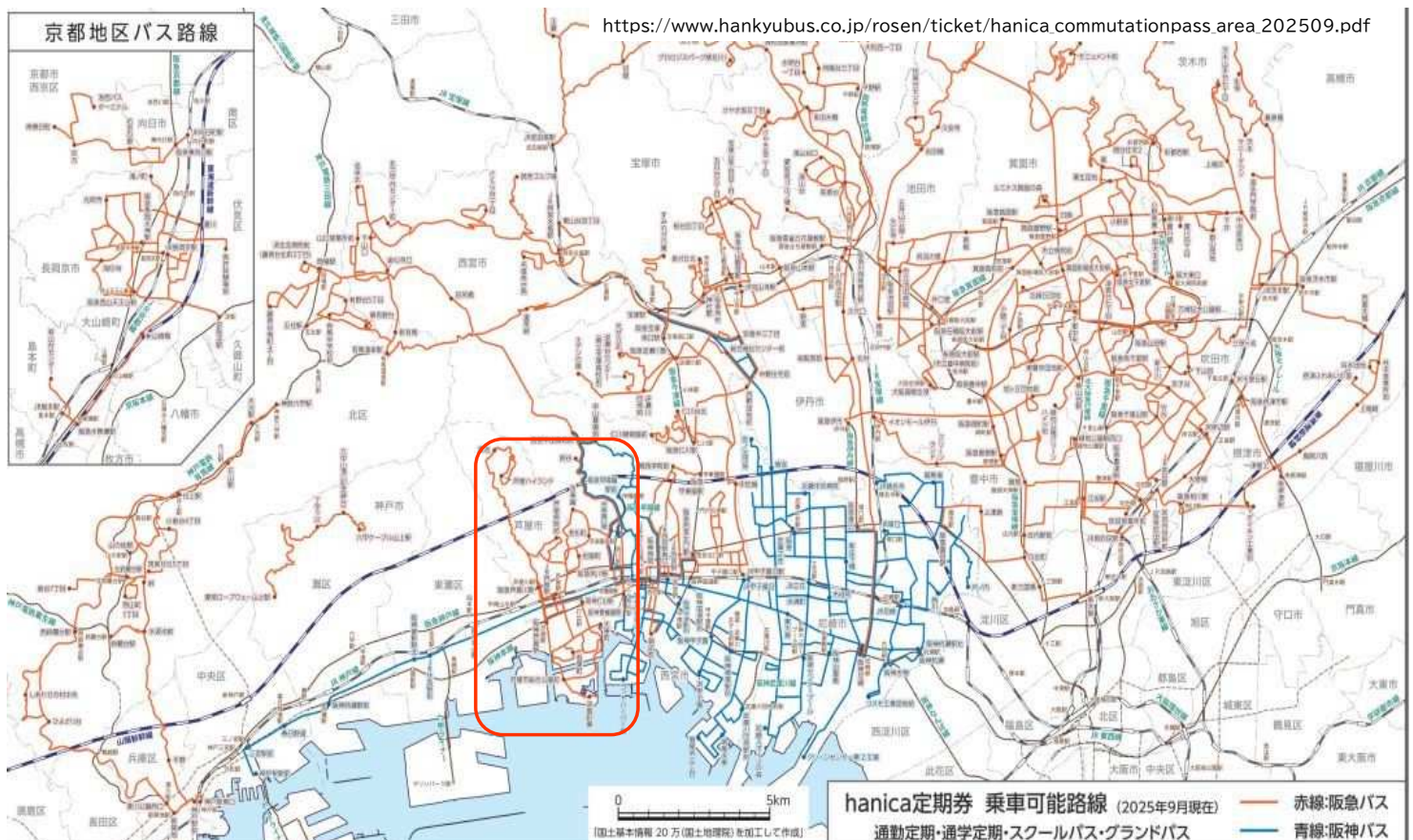
・芦屋市以外の路線も乗れます

外出促進の期待

現在バスに乗る回数が多いため、本事業を利用せずに阪急グランドパスを購入されている市民の方や、阪神バス利用者も対象となるため、利用者の拡大や外出支援につながります。

https://www.hankyubus.co.jp/rosen/ticket/pdf/gp_guide.pdf

市民負担軽減策(阪急グランドパス70購入代金の助成)②



市民負担軽減策(阪急グランドパス70購入代金の助成)③

購入代金の助成は3割とし、37,600円(約、月3,100円)の負担となります。

助成額は3割助成とする(100円未満切り捨て)

期間	グランドパス料金	助成額	市民負担	月間乗車回数目安
1ヶ月	7,200	-	-	-
3ヶ月	15,700	-	-	-
6ヶ月	29,700	8,000	21,700	21
1年	53,600	16,000	37,600	18

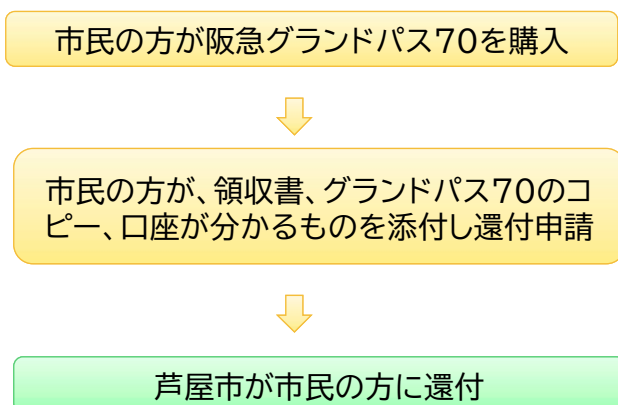
- 1年定期を基本とし、6か月定期の購入代金の助成はその半額とする。
- 外出促進の意図を考慮し、6か月以上から助成の対象とする。

制度	現行制度(見直し後)	阪急グランドパス70
乗車範囲	芦屋市内のバス停で阪急バスに乗車	市外、県外利用、阪神バス利用も可
助成額	毎回3割(250円の場合180円負担)	半年、年間定期代を3割助成
助成方法	ICカードで乗車ごとに助成	次ページのとおりに

市民負担軽減策(阪急グランドパス購入代金の助成)④

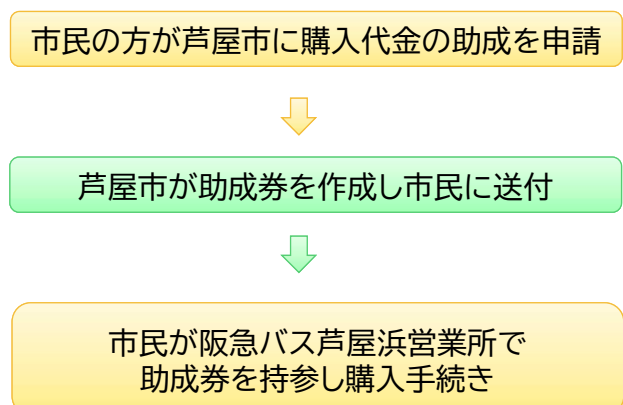
助成の方法は現在検討中です。

●市民の方が助成を受けたい場合の手続き A案



購入はどこでも、いつでもできます。
購入後、還付申請が必要です。

●市民の方が助成を受けたい場合の手続き B案



手続きができる場所は決まっており、
芦屋市では芦屋浜営業所のみに なります。

高齢者バス助成事業の助成割合見直しによる本人負担比較①

阪急グランドパス購入代金の助成開始により、**年間乗車回数が多い方は現行制度よりも負担が少なくなります。**

乗車回数別本人負担額の比較(円)(全体比較)

年間乗車回数	人数	グランドパス移行人数	現行制度	見直し案	本人負担	本人負担
			本人負担額(円)	本人負担額(円)	平均月額増加額(円)	増加割合
361～	284	284	17,201,600	10,678,400	△1,914	△37.9%
301～360	214	214	9,147,970	8,046,400	△429	△12.0%
241～300	333	333	11,505,520	12,520,800	254	8.8%
181～240	535	243	14,446,900	19,339,200	762	33.9%
121～180	930	0	17,863,690	24,734,340	616	38.5%
61～120	1,703	0	19,333,730	26,769,780	364	38.5%
～60	6,315	0	15,791,360	21,864,960	80	38.5%
合計	10,314	1,074	105,290,770	123,953,880	151	17.7%

阪急バス利用者は月に9～11日以上利用される方の場合

阪神バス利用者は月に6～7日以上利用される方の場合、阪急グランドパス購入の方がおすすめです。

高齢者バス助成事業の助成割合見直しによる本人負担比較②

月の乗車日数	現行制度		見直し後			備考 (阪急グランドパス70購入時と 現行制度の比較)
	月間負担額	年間負担額	月間負担額	年間負担額	阪急グランドパス70購入時	
15	3,900	46,800	5,400	64,800	37,600	現行負担額より負担減
14	3,640	43,680	5,040	60,480	37,600	現行負担額より負担減
13	3,380	40,560	4,680	56,160	37,600	現行負担額より負担減
12	3,120	37,440	4,320	51,840	37,600	現行負担額とほぼ同額
11	2,860	34,320	3,960	47,520	37,600	現行料金に月々約270円追加
10	2,600	31,200	3,600	43,200	37,600	現行料金に月々約530円追加
9	2,340	28,080	3,240	38,880	37,600	現行料金に月々約790円追加
8	2,080	24,960	2,880	34,560	37,600	
7	1,820	21,840	2,520	30,240	37,600	
6	1,560	18,720	2,160	25,920	37,600	
5	1,300	15,600	1,800	21,600	37,600	
4	1,040	12,480	1,440	17,280	37,600	
3	780	9,360	1,080	12,960	37,600	
2	520	6,240	720	8,640	37,600	
1	260	3,120	360	4,320	37,600	

本事業の見直しに対してよくあるご意見と本市の見解

よくあるご意見	市の考え方
本事業は高齢者の外出支援ではなく、高齢者のための経済的支援の制度になっている。市の税金なのに高齢者だけを優遇するのはおかしい。事業そのものを廃止すべきだ。	本事業は高齢者の外出支援を促進する事業であり、外出支援効果があると判断しています。
高齢者は生活が苦しい。高齢者バス運賃助成事業の助成額を減額すれば外出が減るので、助成の減額はしてはならない。	本事業は、経済的支援という制度ではなく外出支援のための制度になります。所得や課税の有無で外出の必要性が変わるものではないですので、引き続き70歳以上の高齢者全ての方を対象とします。
高齢者だけでなく、生活が苦しい人を対象にすべきだ。バスに乗りたくても乗れない人がいる。高齢者に限らない経済的支援とすべきだ。	なお、これから制度を利用される方にも使っていただけるように、 本事業をこれからも残すために持続可能な制度に変えていきます。



本事業が必要と考えているからこそ、70歳以上の方全員が使える制度として、持続可能な形に変更します。

市バスを所有していない自治体(阪神間)での同事業の比較

近隣自治体と比べても充実した外出支援制度です。

自治体	支援内容	助成額の上限	交通手段の範囲	対象条件／所得制限
芦屋市(見直し後)	①芦屋市専用ICカード ②阪急バス「グランドパス70」定期券助成	①上限なし ②16,000円	バスのみ	70歳以上／なし
西宮市	バスICカード・回数券購入時に使える割引証	年間5,000円 (1,000円券5枚)	バスのみ	70歳以上／なし
宝塚市	バス・指定タクシーで使える助成券	年間5,000円 (500円券×10枚)	バス・タクシー	70歳以上／なし
三田市	バス・電車・タクシーで使える割引券	年間7,500円 (500円券×15枚)	バス・鉄道・タクシー	70歳以上／なし
猪名川町	阪急バス「グランドパス70」定期券助成	区分1=最大20,000円、 区分2=最大15,000円、 区分3=最大10,000円	バスのみ	70歳以上／あり(3区分制)
川西市	制度なし			

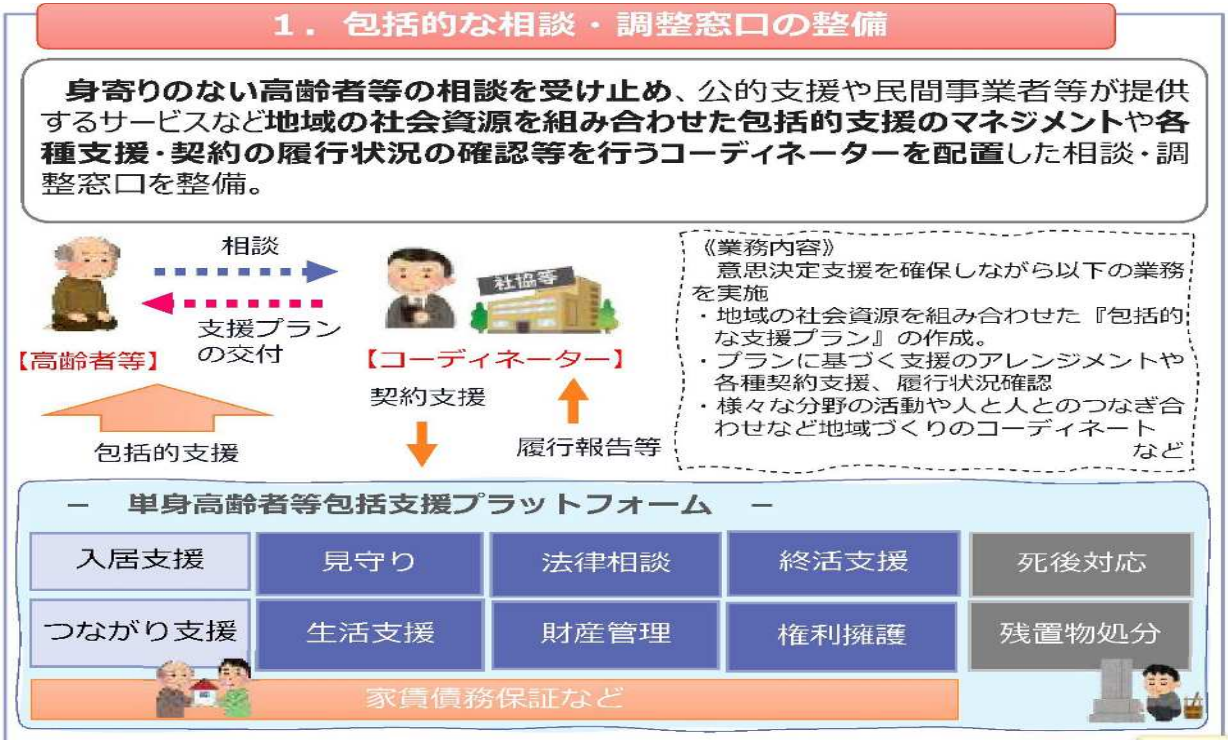
外出支援と暮らしの安心をさらに拡充

助成割合を工夫して、新しい支援を実現します。外出支援の拡充や、終活の相談窓口を新たに整える検討を開始します。

高齢者から要望の多い施策	高齢者から要望の多い施策への対応
高齢者の見守り等安心に暮らせる対策	令和7年8月より緊急通報システムの利用条件を緩和
認知症対策	令和5年度より認知症賠償保険制度を導入
健康づくりに関する対策	従来より介護予防の取組を実施中
終活や身寄りのない高齢者に関する支援	終活事業の検討開始
要介護度が高い方(バスに乗れない方)への移動支援	助成対象者の拡充を検討

終活事業の開始を検討

身寄りのない高齢者の増加に伴い、終活相談窓口の開設を検討します。



要介護高齢者外出支援事業の拡充

要介護3の方を対象に追加する等、身体上の理由でバスに乗れない方への支援の拡充を検討します。

■要介護高齢者外出支援サービス事業拡充案

区分	対象者	金額
現行	60歳以上の在宅で 寝たきり又は認知症の高齢者 (障害高齢者の自立度、認知症高齢者自立度で判定)	500円券52枚
拡充分	上記に加え 要介護3以上の人を対象に追加	500円券52枚

■市内の要介護者の人数

認定度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
人数	1,407	1,031	1,357	750	740	681	471

スケジュール(案)

市民説明会も開催しながら進めます。グランドパス購入代金の助成を先行し、安心して切り替えられるよう準備します。

実施項目	令和7年度							令和8年度									
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
所管事務調査	★						★										
広報あしや			★								★			★			
市民説明会																	
阪急バスとの契約																	
グランドパス助成開始																	
乗車運賃助成見直し実施															★		

全ての集会所を
想定

システム改修に半年間必要

★ グランドパスへの切替えに
3か月の期間を設ける

高齢者の暮らしをもっと安心・便利に

安心して暮らせるための 高齢者バス運賃助成事業の見直し

01

事業継続

本事業に期待している市民が多く、**持続可能な制度となるよう運賃の助成割合を見直し事業を継続**します。
現行事業どおり1度の利用でも引き続き利用可能とします。

02

充実

阪急グランドパス購入代金への助成を開始し、**バスに多く乗る市民の方の負担を現行よりも軽減**します。また、阪神バスを利用している市民の方が本事業を利用する等、事業利用者の増加を見込みます。

03

相談

高齢者が何でも相談できる高齢者生活支援センターの増設を令和6年度に実施。新たに身寄りのない方等の増加を考慮し、**終活の相談ができる窓口の開設を検討**します。

高齢者バス運賃助成事業の見直し__まとめ

市民の声を大切にした高齢者バス運賃助成事業の見直し

見直しの考え方

- ・ アンケート結果による市民の意見を基に作成
- ・ 制度が持続可能になるように助成割合を工夫します。
- ・ 対象者は限定せず、70歳以上の誰もが使える事業とします。

見直しによる充実化

- ・ 阪急グランドパス購入代金の助成を開始。負担の軽減だけでなく、新たな利用者や、外出支援につながります。
- ・ 要援護者外出支援の対象者を拡充し、身体等の理由によりバスに乗れない方の安心を増やします。